

## 予算決算常任委員会議事日程

平成30年1月15日（月）午前10時20分開会

### 議事日程

- 第 1 補正予算議案の詳細説明
- 第 2 補正予算議案の全体質疑
- 第 3 補正予算議案の審査報告書について

### 本日の会議に付した事件

議事日程のとおり

### 出席委員（17名）

委員長	山 崎 道 夫	委員			
	赤 丸 秀 雄	委員		水 本 淳 一	委員
	廣 田 清 実	委員		高 橋 安 子	委員
	齊 藤 正 範	委員		村 松 信 一	委員
	昆 秀 一	委員		藤 原 梅 昭	委員
	川 村 農 夫	委員		高 橋 七 郎	委員
	長谷川 和 男	委員		川 村 よし子	委員
	小 川 文 子	委員		藤 原 由 巳	委員
	藤 原 義 一	委員		米 倉 清 志	委員

### 欠席委員（なし）

矢巾町議会委員会条例第19条の規定により出席した説明員は次のとおりである。

町 長	高 橋 昌 造 君	副 町 長	水 本 良 則 君
総務課長兼		企画財政課長兼	
防災安全室長	山 本 良 司 君	政策推進室長	藤 原 道 明 君

会計管理者兼 税 務 課 長	佐 藤 健 一 君	住 民 課 長	浅 沼 仁 君
福 祉 ・ 子 ど も 課 長	菊 池 由 紀 君	健康長寿課長	村 松 徹 君
産業振興課長	稲 垣 譲 治 君	道路都市課長	菅 原 弘 範 君
農 業 委 員 会 事 務 局 長	村 松 亮 君	上下水道課長	山 本 勝 美 君
教 育 長	和 田 修 君	学 務 課 長	村 松 康 志 君
社会教育課長兼 矢巾町公民館長	野 中 伸 悦 君	学校給食共同 調 理 場 所 長	佐々木 忠 道 君
代表監査委員	吉 田 功 君	農業委員会会長	高 橋 義 幸 君

#### 職務のために出席した職員

議会事務局長	吉 田 孝 君	係 長	藤 原 和 久 君
主 任 主 事	渡 部 亜由美 君		

---

午前 10 時 20 分 開会

○予算決算常任委員長（山崎道夫委員） 会議に先立ち、委員の皆さんにお諮りいたします。

本委員会の傍聴者希望者には、委員会条例第17条第1項の規定により、傍聴の許可をしたいと思いますが、これにご異議ございませんか。

（「異議なし」の声あり）

○予算決算常任委員長（山崎道夫委員） ご異議がないようでありますので、許可することに決定をいたします。

ただいまの出席委員は17名であります。定足数に達しておりますので、会議は成立いたしました。

ただいまから本日の予算決算常任委員会を開会をいたします。

直ちに予算決算常任委員会の会議に入ります。

---

#### 議事日程の報告

○予算決算常任委員長（山崎道夫委員） 本日の議事日程は、あらかじめお手元に配付したとおりであります。

これより本日の日程に入ります。

---

#### 日程第1 補正予算議案の詳細説明

○予算決算常任委員長（山崎道夫委員） 日程第1、補正予算議案の詳細説明を行います。

付託を受けました議案第1号 平成29年度矢巾町一般会計補正予算（第9号）について、詳細説明を求めます。

藤原企画財政課長。

○企画財政課長（藤原道明君） それでは、私から平成29年度矢巾町一般会計補正予算（第9号）の詳細について説明いたします。

9ページをお開き願います。今回の補正につきましては、先ほど報告いたしました報告第1号の損害賠償事件に関するもの、それから伊藤前副町長の死亡広告に関するもの、ふるさと納税に関するもの、国民保養センターの湯湯ポンプ、お湯を揚げるということですが、湯湯ポンプの更新に関するもの、それからパラリンピック出場見込み選手に係る大会出場補助金に関するものの5項目に関する歳出補正と、その財源としての歳入補正となっております。

ります。説明に当たりましては、款、項、項の補正額の順で行います。

それでは、歳入、16款寄附金、1項寄附金4,112万8,000円、こちらにつきましては、ふるさと納税に関するものでございまして、12月末までの実績、寄附金額実績が8,247万6,000円ございましたので、これに3月までの見込み分を加えまして、現計予算からの差し引きで計上いたしまして、この金額となっております。

続きまして、17款繰入金、2項基金繰入金436万8,000円、この財政調整基金繰入金でありますが、今回の補正によりまして3月末見込額が12億2,872万6,000円となるものでございます。

続きまして、19款諸収入、4項雑入2万7,000円、損害賠償事件に関する共済金でございます。

13ページをお開き願います。歳出、2款総務費、1項総務管理費3,406万1,000円、こちらにつきまして特記事項をお話いたしますが、まず1目一般管理費の中の秘書事業の増でありますが、伊藤前副町長の死亡広告を合同葬とした関係で広告費の半額を計上してございます。それから、その次の6目企画費の中でありますが、ふるさと納税の返礼品等の関係に加えまして、件数が多くなっているということもありまして、管理システムの導入を予算に計上させていただいております。システムが120万円ほどになりますし、それから3月からの見込みですが、直接うちで不来方高校音楽部のCDを返礼品に使おうということで、直接購入を考えておりまして、その分40万円もこの消耗品費の中に含まれてございます。

それから、ふるさと納税運営事業委託料につきましては、楽天、それからさとふるに関する増額見込みでの業務委託料を計上しておりますし、ふるさと納税予備費30万円は、先ほど説明しました管理システムのハードウェアのほうの一式でございます。

続きまして、3款民生費、1項社会福祉費1,096万2,000円、こちらにつきましては、主なもの工事請負費1,144万8,000円でございますが、先ほど来お話ししております湯湯ポンプ、お湯をくみ上げるポンプ1台ありますが、こちらを更新する必要が発生したということで計上しているものでございます。

ページを返していただきまして、10款教育費、5項保健体育費50万円、大会出場補助金でございます。

以上で議案第1号 平成29年度矢巾町一般会計補正予算（第9号）の詳細説明を終わります。よろしくお願いいたします。

○予算決算常任委員長（山崎道夫委員） これで議案第1号 平成29年度矢巾町一般会計補正

予算（第9号）の詳細説明を終わります。

---

## 日程第2 補正予算議案の全体質疑

○予算決算常任委員長（山崎道夫委員） 日程第2、補正予算議案の全体質疑を行います。

質疑の方法についてお諮りをいたします。歳入歳出を一括して行いたいと思いますが、これにご異議ございませんか。

（「異議なし」の声あり）

○予算決算常任委員長（山崎道夫委員） ご異議ないようでありますので、そのように進めてまいります。

なお、質疑に当たりましては、事項別明細書のページ数をお知らせ願います。また、質疑のルールであります。回数制限は設けない一問一答方式としますが、簡単な質疑の場合については何点かまとめてもよいことといたします。

それでは、質疑に入ります。質疑ございませんか。

川村よし子委員。

○（川村よし子委員） ページ数で14ページ、歳出の教育費で体育各種大会出場補助金のパラリンピックのことなのですけれども、うわさというか、下北の高橋幸平君というなお話を聞くのですけれども、私たちちょっとわからないので、その経緯というか、矢巾町が育てた選手というお話あったので、この場でお話を聞きたいと思って質問いたします。

○予算決算常任委員長（山崎道夫委員） 野中社会教育課長。

○社会教育課長（野中伸悦君） ただいまのご質問にお答えいたします。

今回の補正に関してですが、今お話あったとおり、ご紹介いたしますが、高橋幸平君といまして、下北行政区で盛岡農業高校の現在2年生でございます。これにつきましては、日本障害者スキー連盟が12月25日に今度の3月に行われる昌平のパラリンピックの候補者を発表してございます。18名のうち、その中に高橋君が選ばれてございます。競技につきましては、アルペン競技で立位という立った状態のアルペン競技に出場する予定となっております。彼につきましては、矢巾町のスキー協会のほうの指導なども受けて、小学校のころから指導して、自分の努力というかあれなのですが、町のほうでも協力しながら育てた選手になってございます。

以上、お答えいたします。

○予算決算常任委員長（山崎道夫委員） よろしいですか。

川村よし子委員。

○（川村よし子委員）　今までも不来方高校の音楽部の応援とかもやってきたので、今後の高橋君の応援というのは、どういうスケジュールになっているのかお伺いします。

○予算決算常任委員長（山崎道夫委員）　野中社会教育課長。

○社会教育課長（野中伸悦君）　ただいまのご質問にお答えいたします。

今のところまだ候補選手ということではまだ決定ではないのでございますが、1月の下旬から2月の上旬ごろ正式に決定ということをお聞きしてございます。その支援体制についてですが、12月25日発表ということもありまして、今体育協会を中心に地元の下北行政区とか、社会福祉協議会とか、そういったところと一緒に支援体制を検討してございまして、また前回平成22年にバンクーバーに出場した横沢さんのように寄附金等のお金に関する支援等の活動につきましても検討してございますので、よろしくお願ひしたいと思います。

以上、お答えといたします。

○予算決算常任委員長（山崎道夫委員）　そのほかございますか。

廣田清実委員。

○（廣田清実委員）　まず9ページの歳入なのですけれども、4月から12月まで4,692万円、その後の3カ月で4,100万円ぐらいの見込みをしているのですけれども、見込みの計算の考えを一つと。

それから、13ページの、ふるさと納税に関してですけれども、消耗品に関しては、結局見込額で返礼品の関係だと思うのですけれども、ふるさと納税に関する委託料700万円余りの内訳をもう少し詳しくお願いします。

○予算決算常任委員長（山崎道夫委員）　藤原企画財政課長。

○企画財政課長（藤原道明君）　歳入の見込みの考え方ですが、大変申しわけございません。

前回までは、やはりどうなるのかわからないというところがありましたので、このぐらいは寄附金があるのだらうなというところをベースに計算をしたものでございますが、今回にしましては、一番のピークである12月が、もう実績として数字が押さえられてありますので、そちらをベースに、あと1、2、3月分を見込みで立てたということになります。先ほどお話ししたつもりですが、12月までで8,247万6,000円という実績が、もう数値としてできていますので、これにあと1、2、3月の3カ月分を考えたものでございます。

それから、委託料のほうのことですが、楽天につきましては、手数料が寄附額の15%となっておりますし、さとふるのほうにつきましては12%というふうになっております。それぞ

れ税別、これに消費税が入りまして、済みません、それぞれ分解した数値としては、今持ち合わせていないのですが、総額で全部計算をした上での差額ということで今回補正予算を計上したものでございます。

以上、お答えとします。

○予算決算常任委員長（山崎道夫委員） 廣田清実委員。

○（廣田清実委員） 先ほどの説明では、4,100万円ほどは、これからの見込みの数字だという説明を受けたのですけれども、これはであれば、もう12月までの実績なのですか。補正、4,100万円で12月の実績でもう8,800万円あるということで理解してよろしいのですか、それなら。

○予算決算常任委員長（山崎道夫委員） 藤原企画財政課長。

○企画財政課長（藤原道明君） 舌足らずで申しわけございませんでした。12月までの寄附額の実績として計上されておりますので、それが8,247万6,000円になっておる。これは数字として積み上がっております。

歳入に関しては、その計上で、あとこれまでの現予算の4,692万円取っておりますので、その差額分として今回の補正予算4,112万9,000円を計上したということでございます。

以上です。

○予算決算常任委員長（山崎道夫委員） 課長、1月から3月分の見込みとして600万円ぐらいということですか、そうすると、見込みは。

藤原企画財政課長。

○企画財政課長（藤原道明君） そういうことになります。

○予算決算常任委員長（山崎道夫委員） その部分をちゃんとしゃべらないと、なかなかかみ合わない。

○企画財政課長（藤原道明君） わかりました。済みません。557万円ほどが1月から3月の見込みということで計算をいたしました。

○予算決算常任委員長（山崎道夫委員） それで件数とかというのをしっかり話できるのですか、その部分も、それでは。件数。

○企画財政課長（藤原道明君） 12月までの件数ですが、合計で2,732件でございます。これは、いわゆるふるさと納税のサイト等での申し込みだけではなく、持ち込みというふうに我々のほうでは呼んでいますけれども、直接役場のほうにいらしていただいて、手続をとってという方の分も全部含めていましたので、納税サイトだけではございません。

なお、参考までにですけれども、12月までの実績に関しましては、先ほどの件数ですので、1件当たり3万円を超える、平均の寄附額になります。

なお、1月から3月につきましては、312件ほどになるのかなというふうに予想を立てておりまして、こちらのほうは、その大口の分がないであろうということで1万8,000円程度かなと、1件当たり、というふうに見込んでおるものでございます。

以上です。

○予算決算常任委員長（山崎道夫委員） もう一つ聞きますが、県内、県外では、やっぱり県外が多いということだと思いますが、どうなのでしょう。

藤原企画財政課長。

○企画財政課長（藤原道明君） 件数、金額とも県外、特に首都圏といいますか、あと大阪とか、人口の多いところがやはり一番多いです。東京、関東圏と仙台付近と関西、大阪のあたりです。そういったところが一番多いです。

以上です。

○予算決算常任委員長（山崎道夫委員） よろしいですか。

そのほかございますか。

昆秀一委員。

○（昆 秀一委員） ふるさと納税に関してなのですけれども、委託料が随分高くて、ふえていくというのはいいのですけれども、委託料も高いということを感じられる方も多数いらっしゃるかと思うのですけれども、その持ち込みというのは、サイトを通さないでということなのですけれども、その際の返礼品の配送とか、そういうふうなところは、どこが担っているのでしょうか。

○予算決算常任委員長（山崎道夫委員） 藤原企画財政課長。

○企画財政課長（藤原道明君） 持ち込みの方につきましてはの発送等も普通のサイトから申し込まれた方と基本的には、出品事業者をお願いしておりますので、同じでございます。それぞれの返礼品の内容によって出品しているところが発送していただくというふうな形になっております。

○予算決算常任委員長（山崎道夫委員） 昆秀一委員。

○（昆 秀一委員） その出品しているところがということなのですけれども、例えばほかの自治体なんかでは、障害者施設に委託して、そういうふうな配送、発送のほうができるような形をとっているところもあるのですけれども、ゆくゆくそういうふうなことも考えられる

のではないかなと思うのですけれども、その辺の考えをお伺いします。

○予算決算常任委員長（山崎道夫委員） 藤原企画財政課長。

○企画財政課長（藤原道明君） 現在までのところは、一貫してお願いしている関係もあって、それぞれの出店事業者をお願いしています。また、正直申しますと、一旦別なところを集めて、そこから出すというふうな流れをつくるとなると、それはそれで一つの効率的になる面と、非効率になる面と両方ございますので、必ずしもそれに全部持っていくというふうな形は余り芳しくないのかなと思っております。セット品をつくって、A事業者さんからのものとB事業者さんのものを組み合わせたセット品のようなものをつくって、それを配送するというふうな形になれば、セット品については、やはりどこかで集めてパッケージして送るというふうな作業が入ってきますので、そういった部分には昆議員さんのおっしゃったような方法論も大丈夫なのかなと思いますので、今後検討をしてみたいと思います。

○予算決算常任委員長（山崎道夫委員） よろしいですか。

小川委員。

○（小川文子委員） ふるさと納税が大変好評だということで大変喜ばしいことだと思っています。矢巾町を発信していく上で、今回の不来方高校のCDも大変いい発想ではないかなと思います。この伸びた要因についてどういうふうに分析しているか、ちょっとお聞きをしたいと思います。

○予算決算常任委員長（山崎道夫委員） 藤原企画財政課長。

○企画財政課長（藤原道明君） 直接的には、品物をふやすというところが一番効果が大きいかなと考えております。

それから、そもそも目につかないと、選んでいただけないので、目につくようなところに力を入れる、お金もかけているのですけれども、楽天なり、さとふるなりというところを採用して、そこに寄附の返礼品のものを掲示するというところ、その大きくは2点でございますが、今後さらに品物をふやしていくとかということを考えております。正直申しまして、相当寄附額を上げている他の自治体のいいところをまねするようにするというので、今そういう方向でものを考えております。

それから、余り趣旨としていかなものかというふうな論点もあるので、我々としてもちょっとどうしようかなというふうには迷っているところもありますが、結果的に地元矢巾町なりでご商売なさっている事業者の方々のプラスになれば、その品物そのものが矢巾町オンリーのものではないというふうなことでも、それは一つの方法論なのだなというふうな考え

方でやっています。具体的には、薬王堂さんとの関係でビールを返礼品に採用しています。これは、全国の最大手のところも相当力を入れてやっております、いずれ矢巾町にあるものだけにとらわれないというふうな考え方も一部使いながらやっております。いずれそれでも矢巾町の事業者さんの経済が潤うような形での返礼品というふうに捉えております。

以上です。

○予算決算常任委員長（山崎道夫委員） 小川委員。

○（小川文子委員） 大変好評で、ちょっと波に乗ってきたという感じがいたしますので、今の段階で今度矢巾町の農産品の中でリンゴと米が大変好評だという話もありますが、加工品については、どういうふうに考えているのかお聞きをしたいと思います。

○予算決算常任委員長（山崎道夫委員） 藤原企画財政課長。

○企画財政課長（藤原道明君） 今現在も返礼品の種類をふやそうとしておりますので、そういった形で新たな返礼品の開発というふうな部分で可能性のある事業者さんとお話をさせていただいております。

ただ一つあるのが、結構いわゆる寄附が入りますよというものが入ってから、実際の物を出荷というか、送り出すまでの期間とかが割とシビアなのです。余り時間を置かないでぱっと出さなければいけないというふうな状況もあるので、そういったことにどれだけ対応できるのかというのが一つの出店事業者さんを選ぶことになってしまいうところがあります。そういった部分も含めていろいろ説明等もしながら出店する事業者さんの開発をしておりますし、実際今現在サイトに載せようということではいろいろ準備中ですが、具体的に言うと、じゃじゃ麺とか、矢巾町内にじゃじゃ麺屋さんありますけれども、そういったものを新たに出しましょうとかというふうなことで、一気にふやすというのは、なかなか難しいのですが、少しずつですが、ふやしていこうということで頑張っています。

以上です。

○予算決算常任委員長（山崎道夫委員） 村松信一委員。

○（村松信一委員） 今のふるさと納税の引き続き質問したいと思いますが、返礼品、確かに品ぞろえあると思いますが、ふるさと納税は、急激にふえたわけでありまして。それで、昨年8月10日にk o b oスタジアムであれほどの宣伝をして矢巾町ナイターをやったわけでありまして。ですから、こういったところの宣伝効果も物すごくあるのではないかなと思うわけでありまして、こういったところのせっかくお金をかけたわけでありまして、ああいったところの少し効果なども検証する必要があるのではないかなと思います。確かに幅広い品ぞ

ろえ等あると思いますけれども、急にふえたわけですね、ですから、そういったことでのせっかくお金をかけた、その地方創生として取り組んだ効果、そういったことのひとつ分析をお願いしたいと思います。

以上です。

○予算決算常任委員長（山崎道夫委員）　今のは、検証するということ、今後の課題……

○（村松信一委員）　今後検証していただきたいということであります。考えについてお伺いします。

○予算決算常任委員長（山崎道夫委員）　藤原企画財政課長。

○企画財政課長（藤原道明君）　村松委員おっしゃるとおりだと、我々も感じております。ですが、残念ながら、いわゆるこの広告がどれぐらい選ばれることに対して貢献があったのかということのを正確に測定するという方法は、正直民間も含めてないかと思われまます。都度アンケートをとるという方法ぐらいしかないと思うのですけれども、なかなかそれは難しいところがあるのかなと思っております、可能な範囲ではやっていきたいと思っておりますけれども、非常にランダムサンプリングといいますか、何名かの方にちょっとどういう理由で選ばれましたかみたいなことを問い合わせるぐらいは可能かと思っておりますので、そういったことは検討していきたいと思っております。

なお、直接的な効果は、私、先ほどお話ししたように、わからないところではありますが、少なくとも仙台圏からの寄附者がある程度来ているようになったというのは、k o b o スタの影響なのかなと思っております。

以上です。

○予算決算常任委員長（山崎道夫委員）　よろしいですか。

そのほかございますか。

川村農夫委員。

○（川村農夫委員）　12月末で8,200万円余という寄附があったということでございますが、それにかかった経費、要は実質的収入になるものはどれぐらいになっているのでしょうか。

○予算決算常任委員長（山崎道夫委員）　藤原企画財政課長。

○企画財政課長（藤原道明君）　正確な数字というふうには、正直申しまして押さえてございません。ですが、概算的なお話でいえば、返礼品にかけている経費が30%は上回っておりますので、40%弱なのかなと思っております。それに経費等を入れまして、50%まではいかない範囲での歳出なのかなというふうに踏んでおります。正確には、まだ出してございません。

なお、正確に出すとなると、これにかかっている人件費というものも当然考えなければならぬところになってくると思いますので、そういったところも含め、今後出していきたいと思いますが、現状では、まだそういった概算のお話でございます。

以上でございます。

○予算決算常任委員長（山崎道夫委員） よろしいですか。

大口というのはどのぐらいの額があるのでしょうか、最高額。

藤原企画財政課長。

○企画財政課長（藤原道明君） 私の今の記憶ですと100万円というのが1件で大きいところでございます。

○予算決算常任委員長（山崎道夫委員） そのほかございますか。

藤原企画財政課長。

○企画財政課長（藤原道明君） 今いろいろ記憶が曖昧だったところ確認しましたならば、最高で200万円でございます。

以上です。

○予算決算常任委員長（山崎道夫委員） 大口は200万円ということですね。

廣田清実委員。

○（廣田清実委員） 今50%いかないという数字でいいましたけれども、単純にこれ3,400万円と4,100万円の考えを考えれば、1割ちょっとしかないのではないですか。50%以上の経費で82%ぐらい経費がかかっているように見えるのですけれども、これどういうふうに説明していただけるのでしょうか。

○予算決算常任委員長（山崎道夫委員） 藤原企画財政課長。

○企画財政課長（藤原道明君） あくまで総額として考えています。今回の補正予算額云々だけではなくて、1年間の総トータルでそういう感じになる考え方でおります。

なお、今回歳出につきまして、消耗品につきましては、前回まで半分程度は、寄附額の半分程度というふうな見積もりの仕方をしておりましたけれども、さらにちょっとこれまでも何回も補正を重ねてきましたので、少し余裕をとったほうがいいのかなということで若干上乘せを、1割ほど上乘せしておりますので、実質はそこまでいかないものだというふうに考えています。いずれ年間トータルでそういうふうな考え方になります。

以上です。

○予算決算常任委員長（山崎道夫委員） よろしいですか。

そのほかありますか。

(「なし」の声あり)

○予算決算常任委員長(山崎道夫委員) ないようでありますので、これで補正予算議案の全体質疑を終わります。

---

### 日程第3 補正予算議案の審査報告書について

○予算決算常任委員長(山崎道夫委員) 日程第3、補正予算議案の審査報告書を議題といたします。

付託を受けました補正予算議案に対する審査報告書の取りまとめであります。

お諮りをいたします。この後、休憩中に全員協議会室において補正予算議案の可否を含めて附帯意見等の取りまとめを行いたいと思いますが、これにご異議ございませんか。

(「異議なし」の声あり)

○予算決算常任委員長(山崎道夫委員) ご異議がないようでありますので、この後全員協議会室にご参集をお願いをいたします。

ここで暫時休憩といたします。

高橋町長ほか参与の方々は、退席されて結構であります。

午前10時54分 休憩

---

午前11時31分 再開

○予算決算常任委員長(山崎道夫委員) それでは、再開をいたします。

ただいま委員各位から出されました表決を含めた附帯意見等を参考に補正予算審査に対する報告書の草案を作成いたしました。

今からこれに対してご意見をお受けし、成案にしていきたいと思います。

ただいまからその草案を職員に朗読させます。なお、朗読は本文のみとさせます。

(職員朗読)

○予算決算常任委員長(山崎道夫委員) このように取りまとめいたしました。質疑ございませんか。

(「なし」の声あり)

○予算決算常任委員長(山崎道夫委員) それでは、お諮りいたします。

この報告書を成案といたしまして議長に提出することに決定したいと思います。これに

ご異議ございませんか。

(「異議なし」の声あり)

○予算決算常任委員長（山崎道夫委員）　ご異議がないようでありますので、この報告書を成案として議長に提出することに決定いたしました。

　予算決算常任委員会に付託されました補正予算議案の審査並びに審査報告書の作成の一切を終了いたします。

---

○予算決算常任委員長（山崎道夫委員）　以上をもちまして予算決算常任委員会を閉会をいたします。

　大変ご苦労さまでございました。

午前 11 時 34 分　閉会